

## ■カトリック夙川教会のカリヨン（鐘）

カトリック夙川教会には、日本最古といわれる計 11 口(個)の“カリヨン”（鐘）があります。教会が現在地へ移転した昭和 7(1932)年に設置されました。

このカリヨンには時報機能や鍵盤による自由演奏機能が備わり、重さは小さいもので 26.2kg、大きいものでは 452.0kg もあります。

第二次世界大戦中、金属供出で時計盤は失われましたが、カリヨンは多くの人々の努力によって供出を回避することが出来たそうです。一時は修復の技術を持つ専門家を確保できず、老朽化が深刻になっていました。しかし、平成 21(2009)年に

独学で修復技術を学んだ教会関係者によって新たにチームが結成され、長い年月をかけ復元されました。このような人々の努力によって、現在の姿が保たれ、時間を知らせたり、鍵盤で賛美歌を演奏したりすることができるようになりました。



＊取材：カトリック夙川教会



Hanshin-Nishinomiya ~ Syukugawa

## 9 阪神西宮～夙川 西宮まちなみ発見MAP

## まちなみ美化活動 ～景観を守るために～ ②

### 夙川公園

毎月第一土曜日に、グリーンのTシャツなどを身に付けて園内を清掃しているグループがあります。その名も『グリーンティ』。夙川が好きで作られた清掃ボランティアグループです。「夙川公園は大きな公園にも関わらずとてもきれい。それは誰かがきれいにしてくれているからです。その団体の一つとなれば。」との思いで活動を続けられています。子供たちには学びの場ともなり、自然とふれ合い楽しみながら清掃活動することで習慣が身につく、他の場所でも自主的にゴミを拾うようになったそうです。

＊取材：アメリカンカジュアルショップ（菊谷町）



＊表紙写真：夙川公園

＊MAP 作成にあたり以下を参考にしました。  
「建堂 80 周年記念誌」（カトリック夙川教会）  
「目で見える西宮 100 年」（郷土出版社）  
「ライフスタイルと都市文化—阪神間モダニズムの光と影」（東方出版）  
「京交山岳部報」2007 年 11 月号  
「語り部ノートにしのみや」（西宮市環境都市推進グループ）  
「国際交通安全学会誌」vol.23, No.1  
「Gallery 小さい芽」ホームページ <http://gallery6chiisaima.web.fc2.com/>

## 【西宮まちなみ発見 MAP】について

西宮まちなみ発見クラブでは、平成 25 年の活動として、西宮の歴史・自然・暮らしを感じる「景観みどころコース」を作成しました。その中から平成 26(2014)年に 5 つのコース(1~5)を、27(2015)年には 3 つのコース(6~8)を選び、携行用の「西宮まちなみ発見 MAP」として完成させました。

この MAP を片手に、西宮の魅力に触れてみてください！

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 甲陽園～廣田神社  | 5 山口町     |
| 2 西宮北口～甲子園口 | 6 阪神西宮～夙川 |
| 3 夙川～御前浜    | 7 鷲林寺・苦楽園 |
| 4 甲子園       | 8 鳴尾      |

📍「視点場」：裏面地図上のこのマーク「視点場」とは、メンバーが見つけたオススメの景観が見えるベストポジションです。視点場は、誰でも近寄れる場所を設定しています。

## 【西宮まちなみ発見クラブ】とは

西宮まちなみ発見クラブは、公募による市民で構成されるクラブで、平成 17(2005)年より活動しています。景観に関する情報の共有や意見交換を通じて西宮のまちなみについて考え、美しいまちなみづくりを目指す活動を行っています。

平成 28(2016)年 3 月 7 日発行  
企画・制作：西宮まちなみ発見クラブ  
協力：関西学院大学 社会連携プロジェクト「西宮まちづくり」チーム  
西宮まちなみ発見クラブ事務局：西宮市役所景観まちづくり課 (0798-35-3526)

## ■阪神間モダニズムと夙川の都市景観

明治中期以降、「東洋のマンチェスター」と呼ばれるまでに経済的発展を遂げた大阪では、公害による生活環境の悪化や人口の過密化が主な要因となり、多くの富裕層などが自然豊かで健康的な環境を求めて阪神間の郊外住宅地に移り住むようになりました。

山、河川、海辺などの自然環境に恵まれた西宮には、当初は保養地や別荘地、のちには電鉄会社による沿線開発により、日本でも有数の良質な住宅地が生まれました。そして、1900 年代初めから戦前までの間に、阪神地域において、西欧文化の薫陶を受けた新しい日本の近代芸術とモダンなライフスタイルが開いた現象が、のちに「阪神間モダニズム」と称されるようになりました。

阪神間モダニズムの大きな特徴は、まちづくりにおける先進的な試みとともに、西洋的建築様式と阪神地域の豊かな自然、文化、美意識が融合して生まれた独自の建築スタイルを擁する住宅や公共建築物が、他にはない美しい都市景観を創り上げ、またそのまちなみに触発された多くの芸術作品が生まれていることです。なかでも、当時日本で画期的といわれた河川沿いのパークウェイ(都市公園機能を持つ緑樹帯と遊歩道)として昭和 12(1937)年に竣工した夙川公園が、西宮の都市景観形成に果たしてきた役割は大変重要です。春は桜の名所として知られる夙川の織りなす美しいまちなみは、これから人々の心豊かな暮らしを演出する場となりつづけることでしょう。



まちなみを彩る夙川の緑

## 【コース】

**START** 阪神西宮駅 市役所口

- 1 海清寺の大クス
- ↓
- 2 西宮市役所本庁舎屋上庭園
- ↓
- 3 マンボウトンネル
- ↓
- 4 常盤町の一本松
- ↓
- 5 西田公園
- ↓
- 6 山本清記念財団
- ↓
- 7 夙川公園
- ↓
- 8 カトリック夙川教会
- ↓
- 9 松下記念ホールと片鉾池
- ↓
- 10 Gallery 小さい芽

**GOAL** JRさくら夙川駅



阪神西宮駅



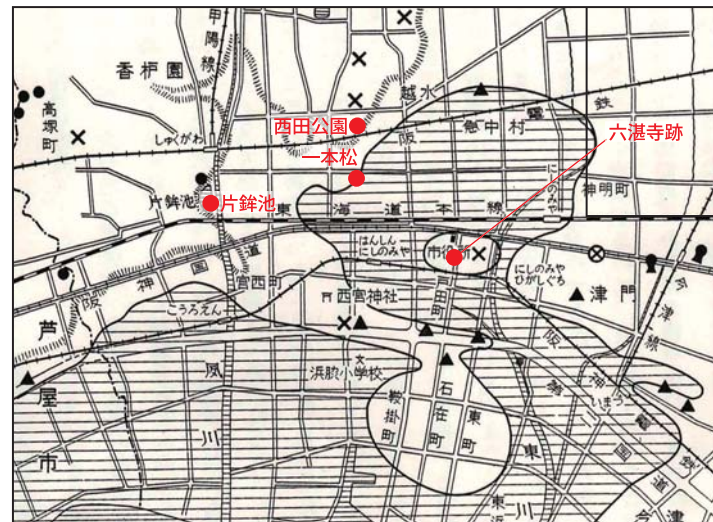
阪急夙川駅



JRさくら夙川駅

## ■海岸線の変遷

現在、西宮市役所がある「六湛寺町」辺りは、平安時代には「武庫入り海」に浮かぶ小さな島でした。歩いてみると、周辺よりも土地が少し盛り上がっていることが確認できます。常盤町の「一本松」は海と陸の境に近く、かつての砂浜にあったのかもしれませんが。「西田公園」は北部の甲山につながる丘の上にあり、近くで弥生式遺物などが出土しています。その丘のふもとに、夙川を水源とする農業用水地「片鉾池」が造られました。昔の地形や景観に想いを馳せながら、ゆっくり歩いて楽しみましょう。



「武庫入り海復元図」(田岡香逸作図)をベースに作成

## まちなみ美化活動 ～景観を守るために～ ①

### 通称 ことぶき公園（寿町）

この公園は、周辺道路拡幅の際、元の土地所有者の意向により、平成 11(1999)年に避難広場として造られたもので、地元の人々からは「ことぶき公園」という名称で親しまれています。園内には、丁寧に手入れされた芝生やりんごの木などがあり、自然の豊かさを感じることができます。歩道に向けられたプランターに咲く色とりどりの花は、通る人の目を楽しませてくれます。

維持管理は自治会が担当し、美観が保たれています。また、月一回、クリーン作戦と称して、公園のみならず町内全域を対象にした清掃活動も行われています。

＊取材：寿町自治会



## 1 海清寺の大クス／六湛寺町

阪神電車西宮駅市役所口から北に出ると、市民会館や市役所などの施設が並び、一方、西宮市の市木であるクスノキが多く見られ、森のような雰囲気を感じることができます。

なかでも、ひときわ大きいのが海清寺の大クスノキです。樹齢600年を超え、兵庫県天然記念物に指定されています。どっしりとしたその佇まいは、長年にわたり西宮のまちを静かに見守っているかのようです。



## 2 西宮市役所本庁舎屋上庭園／六湛寺町

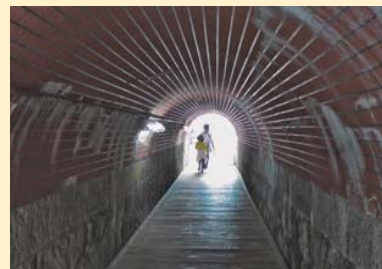
この庭園は、「建築物の緑化事例の普及啓発、情報発信の場」として作られたものです。現在、都市はヒートアイランド現象に直面しています。これらの対策の一環として、西宮市は、建物周辺を緑化するとともに、屋上庭園を作りました。

北西側にある芝生スペースからは、甲山をはじめ六甲のやまなみを眺望することができます。



## 3 マンボウトンネル／平松町

JRの線路下をくぐり抜けるためのトンネルで、もともとは線路の盛土の下を通した用水路であったものに板を敷いて、通路として利用できるようにしたものです。現在、人が通れるマンボウトンネルは市内に三か所あり、小さく天井も低いものながら、JRに分断されている南北の貴重な連絡路として活用されています。マンボウの語源は、オランダ語の「マンブウ」説（小さい穴）や坑道を意味する「間歩」説など諸説あるようです。



## 4 常磐町の一本松／常磐町

西宮市の保護樹木で、道路に大きくはみ出して一段高い区画に生えています。「一本松」は「マンボウトンネル」とともに谷崎潤一郎の著作『細雪（ささめゆき）』に登場します。脇に建つ石碑は摂津国菟原郡（うはらのこおり）と武庫郡（むこのこおり）の郡境碑で、この辺りに境界があったと言われていました。常磐町の北に位置する分銅町の町名は、石碑の上部に刻まれた分銅（ぶんどう）家紋に由来しています。



## 5 西田公園／西田町

園内にある万葉植物苑は、万葉研究家犬養孝の指導のもとに、『万葉集』に詠われた72種類の植物が集められ、陶板には植物にかかわりのある歌も記されています。犬養孝筆の犬養孝持（おおとものかもち）の歌碑もあります。園内にはそのほか、松の木広場、展望広場、幼児広場、芝生広場、自由広場、ふれあい広場、水のテラスなどがあり、木々の間から甲山を望むことができます。



## 6 山本清記念財団（旧山本清邸）／結善町

昭和13（1938）年に竣工した旧山本清邸は、400坪の敷地に日本庭園と茶室、和洋折衷の邸宅が見事に調和した国登録有形文化財です。ステンドグラスの飾り窓と大理石の暖炉がある居間、シャンデリアが輝く寝室、繊細な木彫りが施された階段や和室など、阪神間モダニズムの美意識の粋を体感することができます。平成23（2011）年に、西宮市都市景観形成建築物に指定されています。



\*写真提供：山本清記念財団

## 10 Gallery 小さい芽／千歳町

「大震災を決して忘れないように」と平成8（1996）年に建てられました。建築家安藤忠雄が設計し、命名もしました。外観や内部の展示スペースは、コンクリート打ち放しになっていて、安藤ワールドを感じることができる建物です。再生と復興への希望と願いをこめて氏が贈ったモニュメントは、建物の外からも見ることができます。第2回西宮市都市景観賞を受賞しています。



## 9 松下記念ホール（夙川公民館）と片鉾池／羽衣町

水辺で憩える公園として整備された片鉾池は、春には桜、夏にはハスなどたくさんの自然を楽しむことができます。池の上には、昭和39（1964）年に松下幸之助から寄贈された浮御堂式の斬新なデザインの夙川公民館が建っています。明治の終わり頃には、ウォータースライダーなどがあり、関西最大級の香櫨園遊園地として賑わっていました。池の南には、詩人八木重吉の「幼い日」の詩碑があります。



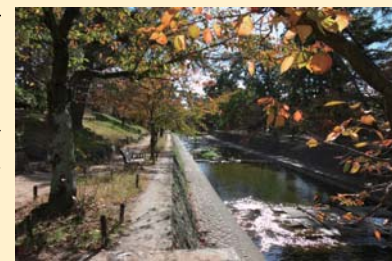
## 8 カトリック夙川教会／霞町

昭和7（1932）年に、梅木省三設計のネオ・ゴシック様式の壮麗な聖堂が完成し、平成21（2009）年に西宮市都市景観形成建築物に指定されました。美しいステンドグラスやカリヨン（鐘）の音が地域の方々に親しまれています。教会は、結婚式場やコンサート場などとしても利用されています。阪神淡路大震災によって屋根にあった「クロケット」（棟飾り）が落下してしまいましたが、現在は聖堂入口に保存されています。人と人とのつながりや伝統を感じることのできる教会です。



## 7 夙川公園（夙川舞榭・こほろぎ橋）

河川全体が公園として整備されていて、約1660本の桜があり、「日本さくら名所100選」にも選ばれています。川沿いを歩くと西宮のシンボルである甲山を望むことができ、四季折々の自然を楽しむことができます。



阪急夙川駅北には、映画『細雪』や『火垂るの墓』、『阪急電車』などに登場した「こほろぎ橋」があります。夙川駅南にある羽衣橋の東には、夙川周辺で発見された新種の「夙川舞榭」が植えられています。